



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第23号 令和5年3月9日

小美玉市立美野里中学校

「有終の美」そしてその先に

3年生は、高校受験を終え、3月7日には奉仕作業を行いました。これまでの感謝の思いを込め、一所懸命働き、きれいな環境をつくってくれました。

また、8日には「3年生を送る会」が行われ、後輩たちとともに、自分が歩んできた中学校生活3年を振り返り、大切な思い出を残しました。

悲しいことではありますが、物事には必ず終わりがやってきます。3年生は、中学校生活に、終止符を打つときがやってきました。

皆さんは、「旅立ちの日に」という曲を知っているでしょうか。この曲は、1991年3月、埼玉県秩父市立影森中学校の卒業生に、その学校に勤務する坂本浩美先生が、「卒業生を送る歌」としてプレゼントした曲です。その後、この曲は大変な反響を呼び、全国の中学校の卒業式で歌われるようになりました。

私もこの曲を聴くたびに、胸が熱くなってしまいます。

「旅立ちの日に」

白い光りの中に 山なみは萌(も)えて
遥かな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ
自由を駆ける鳥よ ふり返ることもせず
勇気を翼にこめて 希望の風にのり
このひろい大空に 夢をたくして

懐かしい友の声 ふとよみがえる
意味もないいいさかいに 泣いたあのとき
心かよったうれしさに 抱き合った日よ
みんなすぎたけれど 思い出強く抱いて
勇気を翼に込めて 希望の風にのり
このひろい大空に 夢をたくして

いま 別れのとき
飛び立とう 未来信じて
弾む若い力信じて
このひろい
このひろい 大空に

いま 別れのとき
飛び立とう 未来信じて
弾む若い力信じて
このひろい
このひろい 大空に



「有終の美」という言葉には、凜としたものを感じます。最後に美しいものを残そうとする気概は、その人の品格につながるものだろうと思います。卒業までの残された時間の中で、友と親交を温め、多くの人に感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

卒業生の皆さんの生活は、これからも続きます。次のステージで、また新たな「出会い」があり、新たな「経験」を味わうことでしょう。この歌の歌詞にあるように、若い力を存分に発揮して、自分の未来をたくましく切り開いてほしいと思います。